

## 平成30年度教育研究業績書

氏名 岩崎敬二

最終学歴	京都大学理学研究科博士課程満期退学	
取得学位	理学博士(京都大学)	
所属学会	日本生態学会(近畿地区会自然保護専門委員長、外来種問題検討作業部会員)、日本貝類学会(評議員、多様性保全委員会委員長、学会誌編集委員)、関西自然保護機構(運営委員)、日本ベントス学会、付着生物学会、日本陸水学会、軟体動物多様性学会、応用生態工学会、陸水生物研究会、南紀生物研究会、東京貝類同好会、名古屋貝類談話会	
専門分野	生物地理学、動物生態学、保全生物学	
研究課題	外来海洋生物・外来淡水動物の分布、生態、被害、リスクアセスメントおよび防除に関する研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現技法 I</li> <li>・環境論 III・IV・VII・VIII</li> <li>・人間論 V</li> <li>・生物の多様性</li> </ul>
	大学院修士課程担当科目(博士前期課程含)	
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境論 III</li> </ul>
【研究上の特記事項】	<p>一昨年度までの4年間に受けていた科学研究費(基盤C)「島嶼の外来海洋生物学:侵入リスクの推定と分布拡大予測」では予算不足のためにできなかった大東諸島の調査を行った。また、この科学研究費(基盤C)による調査の結果で、まだ未発表であったものの論文作成と発表を行った。奈良県では、絶滅危惧種の陸貝であるナガオカモノアラガイの県下での分布・生息状況調査を各地で行った。</p> <p>関西自然保護機構が発行する雑誌「地域自然史と保全」に投稿し、2017年度に掲載された論文「京都府海岸の外来固着性動物:2006年と2016年の比較」により、四手井綱英記念賞を受賞した。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>講義では、常にコンピューターを用いてPpower Pointなどのプレゼンテーション用ソフトやビデオ・DVD資料を使用し、写真や図表や動画を示しながら視覚的・聴覚的にわかりやすいよう工夫を凝らしている。環境論VII&amp;VIIIでは、野外調査を何度も実施して、自然体験の少ない最近の学生たちに、健全&amp;不健全な自然環境を体験・理解できるよう努力している。また学会の自然環境保全委員会委員長や行政招集の委員などを幾つも務めた経験から、政治、行政や産業界の環境問題に対する取組の現状についても紹介している。</p>	
【社会的活動】	<p>日本貝類学会多様性保全委員長、日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員長、日本生態学会外来種問題検討作業部会委員、環境省絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会貝類分科会委員、環境省特定外来生物選定専門家グループ会合(無脊椎動物)委員、環境省希少野生動植物種保存推進員、京都府外来種実態調査委員等の活動を通して、自然環境保全・希少生物保護・外来生物防除等に係る活動や情報収集、行政機関への情報提供と助言、関係機関への要望書提出などを行った。</p> <p>日本貝類学会多様性保全委員長として、日本貝類学会創立90周年記念公開シンポジウム「日本の貝類の多様性と保全」を企画・準備・実施し、趣旨説明と講演発表および司会進行を行った。</p>	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	<p>共通教育機構初年次教育ワーキンググループの一人として、本学での初年次教育の円滑かつ効果的な実施と改善に向けた活動を行い、特に、H31年度4月実施の「奈良大生第一歩」と「学生生活相談」の企画・準備・実施に尽力した。共通教育機構全学教務委員として、H31年度の新入生オリエンテーションのあり方について提言を行なった。ウインドオーケストラ・生物研究会・天文同好会・ワンダーフォーゲル行道会・放送研究会等合計12もの文化会クラブやサークルの顧問として、本学学生の課外活動等の支援や助言を行なった。</p>	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
(学術論文)				
① 日本の海の外来生物:現状、被害、対策	単著	2018年4月	野生復帰, 6:1-5.	日本の外来海洋生物の分布拡大と対策に関する総説。
② 京都府阿蘇海と由良川下流でのコウロエンカワヒバリガイの分布	単著	2018年6月	地域自然史と保全, 40(1):13-22.	外来海洋生物コウロエンカワヒバリガイの京都府内での2017年の分布を調べ、各調査場所での生息の有無に関わる要因を分析した。
③ 外来海洋生物の侵入と在来生物・生態系への影響	単著	2018年7月	環境技術, 47(5):260-264.	日本の外来海洋生物の侵入過程と在来生物・生態系への被害に関する総説。
④ Nonindigenous marine invertebrates on four populated islands in the Sea of Japan	単著	2018年11月	Biogeography, 20: 64-72	日本海に浮かぶ飛島、栗島、舳倉島、見島の外来海洋生物の分布を調べ、各調査場所での生息の有無に関する要因を分析した。
⑤ Distribution of native <i>Mytilus trossulus</i> and non-native <i>M. galloprovincialis</i> (Mytilidae: Bivalvia) on the coasts of the Hokkaido Island, Japan	単著	2019年3月	Memores of the Nara University, 47: 37-54	北海道での在来二枚貝キタノムラサキガイと外来二枚貝ムラサキガイの分布と各調査場所での両者の個体数の割合を調べ、両者の生息に関わる要因を分析し、両者の過去から現在にわたる分布の変化と種間関係を考察した。
(学会発表)				
① 日本における希少貝類の法的保護の現状	単独	2018年5月	日本貝類学会創立90周年記念公開シンポジウム「日本の貝類の多様性と保全」	左記のシンポジウムの開催の趣旨説明を行い、日本における希少貝類の法的保護の現状を解説した。
②				
③				
(その他)				
①				
②				
③				